

観光客のもてなし方を考える

～地域資源とおもてなしの心

『一人一人がコンシェルジュマインドを』～

10月30日(日)、市内のホテルで、シンポジウム『地域資源とおもてなしの心～一人一人がコンシェルジュマインドを～』（登別市・白老町広域雇用創出クラスター担い手育成事業推進協議会主催）が開かれました。

このシンポジウムは、地域の観光資源を見つめ直すとともに、観光客のもてなし方を考えてもらおうと行われたもので、約80人が参加しました。

最初に、札幌市内のホテルでコンシェルジュとして活躍する岡西昭子さんが『コンシェルジュの表舞台と舞台裏』と題して講演。岡西さんは「コンシェルジュは、ガイドであり、コーディネーター、アドバイザーでもあります。困っているお客さんを助けられるのはコンシェルジュ。助けてあげたい、何かしてあげたいと思うのが『一人一人がコンシェルジュマインドを』ではないかと思います」と話していました。

続いて、日本観光旅館連盟副会長の澤功さんが『地域ぐるみのおもてなし～外国人のお客様対応を通して～』と題して講演。澤さんは「外国人観光客は、まちぐるみで受け入れることが大切。外国語が話せなくても、単語だけでもコミュニケーションが取れます。ちょっとした親切やふれあいも大事です」と述べ、参加者はメモを取りながら熱心に耳を傾けていました。

この後、登別温泉町の飲食店主・飯島武さん、白老町アイヌ民族博物館の山丸郁夫さん、岡西さん、澤さんの4人が『地域資源とおもてなし』をテーマにパネルディスカッションを行い、それぞれの考えを発表・討論していました。



パネルディスカッション
『地域資源とおもてなし』

日ごろの活動の成果を発表

～生涯学習フェスティバル～

10月22日(土)、市民会館で『生涯学習フェスティバル』が開かれ、約600人の市民が参加しました。

この催しは、市内の生涯学習団体などが集い、日ごろの活動の紹介や成果を発表するもので、2年ごとに行われています。

フェスティバルは、登別出身の三味線奏者・白田路明さんによる演奏で開幕。ステージでは、太鼓や郷土芸能、よさこいソーラン、ときめき大学の学生によるハーモニカの演奏とフラダンスが披露され、会場に詰め掛けた市民から盛大な拍手が送られていました。

このほか、学び体験コーナーでは、魚拓や陶芸、竹とんぼ作りなどが行われ、参加者は学ぶ楽しさを体験していました。



ときめき大学の学生によるハーモニカ演奏

100年先の森づくりを目指して

～鉾山流里山づくり森林整備ボランティア『チカタビレンジャー』～

11月3日(木)、鉾山町で、鉾山流里山づくり森林整備ボランティア『チカタビレンジャー』の初活動が行われ、25人の市民が参加しました。

この活動は、ふおれすと鉾山が進める『鉾山流里山づくりプロジェクト』の一環で、100年先の森づくりを目指し、市民の手で鉾山町に誰もが持続的に楽しめる森を育てていくことを目的に行われるものです。

この日は、来春、ふおれすと鉾山周辺で行う植樹に必要な苗木を選ぶ作業。地下足袋や長靴を履いた参加者は、カエデやミズナラなど、人間の手が加えられていない高さ30㍍ほどの木に、目印となるピンク色のリボンを巻きつけるなどの作業に汗を流していました。

